

周遊地・宿泊地としての沼津市の 観光資源の発掘と魅力向上・情報発信について

日本大学 国際関係学部 宍戸ゼミナール

指導教員：教授 宍戸 学

参加学生：3年寺田響、原万妃琉、菊池紗楓、吉川綾乃、田中裕希奈、
中村憂衣、矢崎慎也、清水美月、大村美那海、
松山和加、塩田輝希、藤本健人、奥隅佳、他ゼミ生協力

1 要約

沼津市と宍戸ゼミは、2021年度から沼津市の観光活性化に取り組み、2023年度は「周遊地・宿泊地としての沼津市の観光資源の発掘と魅力向上・情報発信」に2つの研究チームで取り組んだ。「地域観光ユニット」は、2022年度から原地区の観光魅力発掘を継続し、地域イベント参加と学生目線から情報発信を行い、古民家を活用したゲストハウスや観光案内所等の拠点づくりを研究した。「旅行ビジネスユニット」は、着地型体験商品造成にむけ調査し、観光モデルコース造成と、若者を意識した観光イベントを企画し、実施（2月）。実施にあたっては、多くの関係者定期的に会議を行った。

成果は、①学生目線で作成した原地区の観光マップ作成、②原地区の地域の賑わいの創出の提案、③若者を中心とした体験モデルコースの造成と告知、④若者向け観光イベントの実施、⑤本学部祭で、来訪者に認知度や関心の調査を行い、魅力を伝えた。最後に、関係者に報告会を開催した。

2 研究の目的

本研究では、旅行ビジネス・地域観光の2つの研究チームに分かれ、若者目線から周遊地・宿泊地としての沼津市の観光資源の発掘と魅力向上・情報発信に向けて取り組み、沼津市の観光客を増加させる取り組みを行い、その結果を検証する。沼津観光は、港エリアやアニメーターリズムが有名だが、その他の地域や観光資源の活用が進んでいないため、原地区と戸田地区を活動エリアとする。

3 研究の内容

(1) 旅行ビジネス研究：戸田地区ならではの観光ツアーの造成とチラシ製作や、若者が楽しめるイベントを企画することで、戸田地区の認知度向上に繋げ、交流人口の増加を図った。また動画やSNSを活用した戦略的なプロモーション活動を行い、戸田地区の魅力を発信することで、地域活性化に繋げることを試みた。調査で得た情報をもとに、戸田地区の自然や文化、人々の暮らしに触れ、癒しを与えるヘルスツアー造成に取り組んだ。イベントは、戸田観光協会、「海のほてる いさば」と連携を行い、学生や地域住民を対象とした、夕日を鑑賞するイベントの企画に取り組んだ。

(2) 地域観光研究：若者誘致を目的としたマップ作成は、関係機関と連携し、複数回の現地調査を重ね、SNS映えマップを作成することで、若者の目を引き付けるような原地区の魅力発信を試みた。また、現地調査で得た原地区の情報や課題をもとに地域にとって必要な観光コンテンツを考え、空き家再生モデル案として反映させることで地元住民と観光客との交流創出を研究し、提案した。

(3) 研究成果の地域への還元

上記に示すような形での研究や情報発信に加えて、沼津市観光ポータルサイトにて取り組みの成果を情報発信する。またプロジェクトの取り組み報告として、2024年1月24日に沼津市役所にて関係者に向けたプロジェクトの報告会を行い、様々な意見をいただくとともに、今後の地域での取り組みに生かすための方法を議論することができた。

4 研究の成果

〈旅行ビジネス研究チーム〉

(1) 当初の計画

戸田地区で視察や体験、調査を行い、新たなコンテンツや魅力を発見する。自然を取り入れたイベントや旅行ツアーの造成し、それを実施する。取り組みの過程と結果を SNS 等で発信する。

(2) 実際の内容 A：当初の予定通り

1) 沼津観光協会・戸田観光協会と連携し、複数回の調査を行った。調査対象は、①駿河湾深海生物館、②御浜岬公園、③諸口神社、④かにや光徳、⑤戸田塩作り体験、⑥Tagore Harbor Hostel、⑦天空テラス、⑧海のほてるいさば、⑨道の駅くもら戸田、⑩はかま滝オートキャンプ場などである。

2) 「海のほてるいさば」に1泊2日で試泊し、観光体験と調査を経て、若者や地域住民対象の旅行商品を提案した。

3) 沼津観光協会と戸田観光協会とミーティングを重ね、電動自転車で巡るヘルスツアーの造成に取り組んだ。

4) 「海のほてるいさば」のラウンジ・テラスで夕日鑑賞イベントを実施(2024.2.7)。

5) PR 動画作成、宍戸ゼミの Instagram やフェイスブックなど SNS で情報発信を行った。

6) 学園祭で、戸田地区の観光情報やモデルコース紹介を模造紙で展示し、戸田地区の魅力を発信し、戸田地区のアンケート調査を行い、戸田地区の認知度向上に繋げ、交流人口の増加を図った。



図1 戸田地区の調査の様子



図2 ゼミ生作成の戸田地区の SNS 情

(3) 実績・成果と課題

戸田地区は、海や山の自然・景観及び歴史・文化など多くの地域資源に恵まれているが、地域の認知度が低く、人口減少と少子高齢化など様々な問題を抱えている。そこで、若い世代が足を運んでもらう機会を作るイベントを企画した。戸田観光協会や「海のホテルいさば」の協力のもと、地域の魅力発信のために戸田紹介や戸田クイズに加え、ゲーム性を取り入れた「ベストショット賞」という夕日を一番綺麗に撮れた人に景品を贈呈するといった、若者が楽しめるようなイベント内容になる工夫が出来たと考える。プロモーション活動は、調査時の写真や動画から戸田の魅力が伝わる動画を作成できた。また本学部の学園祭で戸田地区の観光情報やモデルコース紹介を模造紙にて展示し、地域の来場者に向けて、戸田の魅力を発信し、認知度向上につなげることができた。

さらに、視察で得た情報を元に、戸田地区の自然や文化、人々の暮らしに触れてもらい癒しを与えるというコンセプトを掲げ、電動自転車で巡るヘルスツアーを作成し、ちらしを配布する。

(4) 今後の改善点や対策

時間が限られている中で活動初期の年間計画を綿密に立てることが重要である。学生からもっと積極的に地域の方と関わることが交流の幅を広げるきっかけになったのではないかと考える。

〈地域観光研究チーム〉

(1) 当初の計画



図3 戸田サンセットイベント告知ちらし

沼津市の観光は駅周辺や港エリアの他の地域の注目が不十分である。沼津市原の地域を中心に観光マップの作成や空き家を活用したコミュニティの場を提供し、沼津地域の人々との交流を創出し、地域の新たな魅力発見の機会を提供したいと考えた。

(2) 実際の内容 B：一部修正

実際に原地区を調査し、関係者とミーティングを重ね、地域イベントに参加し、その場で学生目線からの原地区のPR展示を実施し、原地区の観光街歩きマップの作成、観光客と地元住民が交流できる観光の拠点づくりとして、空き家再生モデルの提案を行なった。

1) 「はら逸品うまいものフェス」模造紙マップ展示

- ①阿野祭へ参加し、住民にヒアリング調査と街歩き調査を行った。
- ②原地区の地域活性化に取り組むプロジェクトチームと打ち合わせを行い、地域イベントに向けた準備をした。
- ③現地調査で得た観光情報から手書きで模造紙マップを作成した。
- ④「はら逸品うまいものフェス」当日は、完成した模造紙マップ「原で腹いっぱい」の展示を行い、地域の方とのコミュニケーションを通じて原地区の魅力を発信することができた。

2) 原地区の街歩きマップの作成

- ①街歩きマップで紹介する原地区の観光スポットへのヒアリング調査を行い、お店のこだわりやおすすめ商品についての情報収集を行なった。

- ②実際にゼミ生が原の現地へ向かい、原駅周辺や街並みの調査を行った。

③若者誘致のマップを作成するにあたり、現地取材で得た情報をもとにマップをデザインした。工夫点は、学生らしさ、若者の誘客を意識し、インスタグラム風のデザインを考案した。

- ④インスタグラムをモチーフにしたSNS映えマップを作成(2000部)

し、これらを広く観光案内所や沼津市商工会、各飲食店などの地域のスポットに設置出来た。

3) 交流拠点としての空き家再生モデル案の作成

- ①沼津で空き家プロジェクトに取り組む事業者や「沼津市都市計画部まちづくり政策課」へのヒアリングを行い、今後の取り組みの指針を得た。

- ②原地区の地域活性化プロジェクトチームのメンバーと打ち合わせを行い、今後の原地区の拠点としての空き家活用の活動方針について話し合いを行った。

- ③実際に原地域を調査し、阿野祭に参加し、地元でヒアリングを行いながら、街歩き調査を行った。

- ④メンバーで空き家再生の具体案について話し合い、様々な観点から活用イメージを検討した。

- ⑤メンバーでまとめた空き家再生の具体案をもとに、モデル案の作成と具体化を行った。

- ⑥沼津市への報告会において、沼津市原地区の空き家再生モデル案の発表を行った。

(3) 実績・成果と課題

今回の活動で、沼津市原での若者誘致マップと空き家再生モデル案の発表による新たなコミュニティの場を提案することができた。マップについては、SNS映えを意識し、景色・景観のフォトスポットエリアを紹介することで原の新たな魅力を発信することができた。今後は紙媒体だけでなく、サイトやSNSなどWEBでの広報活動も検討する。また、空き家再生モデル案については、地域の魅力発信とともに地元の方と観光客との新たな交流の場としてオリジナルの間取り図を提案することができた。



図4 原地区の活動



図5 沼津原街歩きマップの制作(左側：表裏面・右側：中間)

例えば、一階の直売所は実際に阿野祭へ参加した際、地元の野菜やお惣菜を販売する様子を目にし、地元の方が気軽に施設を利用できるスペースとして作成した。またレンタルサイクルスペースは沼津地域内の観光スポットをより移動しやすくするために作成した。アピールポイントであるダイニングキッチンには、地元で採れた野菜を自由に調理して交流の場が生まれるような共同キッチンスペースをイメージして作成した。

(4) 今後の改善点や対策

日本大学国際関係学部の学生ならではの原の魅力を発信していく必要がある。また、原へ訪れる観光客の目的を把握し、

活動に反映させていくことが重要である。今後は、台湾人のインバウンド客受け入れにも考慮しながら新たな視点で地域の魅力を発信していく必要がある。



図 6 学生考案の空き家活

5 課題提出者・地域への提言

私たちは2つの手法から研究を試みた。広域での周遊を実現するためには、課題が多いことも明らかとなった。実際に沼津の各エリアを訪れた時に、魅力ある観光体験や地元住民との交流などが重要であり、そのためには地域で観光活性化に取り組む人々との連携を通じて、観光資源の発掘や創造、そしてこれらを実際に観光客に提供する手段が重要である。以上から、沼津観光の発展に向けて3つの視点から提案をする。

- ① 戸田地区の若者誘客には、若者向けのイベントの実施や移動手段の充実として電動自転車の活用など利用者目線で観光を楽しめるコンテンツ作りと整備が必要である。
- ② 原地区は、若者向けのコンテンツ開発が求められる。レンタルサイクル活用で周遊性を高め、魅力を伝える新たなツールが必要だ。観光客と住民の交流機会も必要で、空き家の活用は有効だろう。
- ③ 沼津市の既存の観光エリア以外の魅力を掘り起こし、磨き上げ、魅力的な商品に作り上げ、情報発信するには、若者の参画が重要である。観光交流の拠点づくりは時間がかかる。一過性の取り組みでなく、長期的視野で行政、事業者、地域、若者がかかわり続けることが不可欠である。

6 課題提出者・地域からの評価

本年度は2つの研究ユニットが沼津市の課題となっている市内全域への周遊性の向上に向けて研究を行ってくれた。

旅行ビジネス研究ユニットは沼津市の戸田地区を対象として、視察等をもとに戸田の魅力の一つである自然を取り入れたイベントの企画及びツアープランニングを行い、戸田地区の魅力をアピールできるものとなっていた。情報発信についてもインスタグラムを用いた「映え」を意識した若者らしい工夫を凝らしたものとなっていた。

地域観光研究ユニットについても研究対象の原・浮島地区について現地での調査を重ね、紙媒体での紹介マップを作成して同地区の観光地としての魅力発信に取り組んでくれた。マップのデザインも若者に向けてインスタグラムの画面をモチーフにしたものとなっており、広く興味を引き立てるものになっていた。

行政では成し得ない大学生独自の感性による2ユニットの取り組み及び研究に基づいた提言に、感謝申し上げる。



図 7 沼津市への活動報告会